

伊勢原市商工会 令和3年度 経営発達支援計画目標対比実績管理表

2022.06.02 検証委員会（書面決議）

		担当 (下線は選択事業)	昨年度 実績値 (令和2年度)	本年度 目標値 (令和3年度)	本年度 実績値 (令和3年度)	評価委員 評価A～E で表示	評価委員コメント
※全職員：宮川・内海・小川・小泉・矢野・安野・寺嶋・伊藤を指す（局長を除く）							
<b>I. 経営発達支援事業の内容</b>							
<b>1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】</b>							
【調査分析等の目標】							
新規事業	①人口動向調査や神奈川県商業統計等の公的統計の活用	伊藤・小泉	年 0 回	年 1 回	年 0 回	E	新規事業は5年間でも1度も実施できなかった項目となる。これらは、経営発達支援計画が終了後でも、計画し実行できる項目である。
既存改善	②景況調査の実施 ・景況調査結果の提供(15事業所)	全職員	年 0 回	年 4 回	年 0 回	E	3年目までは計画通り実施できていたので、コロナ事態が収束したら、再開されるものと考えられる。
新規事業	③中心市街地商店街等の通行量調査の実施 ・通行量調査	小泉・安野	年 0 回	年 3 回	年 0 回	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。経営発達支援計画が終了後でも、是非計画し、実行して欲しい項目である。
	・広報誌「あふり」による提供 ・商工会ホームページ等での情報発信 ・巡回訪問による情報提供	伊藤・小川 寺嶋・小泉 全職員×5件	年 0 回 年 0 回 年 0 回	年 4 回 年 4 回 計 80 件	年 0 回 年 0 回 計 0 件	E E E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。経営発達支援計画が終了後でも、是非計画し、実行して欲しい項目である。
<b>2. 経営状況の分析に関すること【指針①】</b>							
【小規模事業者の経営分析目標】							
新規事業	①簡易経営分析ツールの活用 ・簡易経営分析ツールの活用件数	指導員4名・小川	計 1 件	計 20 件	計 4 件	D	経営状況分析については、本年度も、また5年間でもほとんど実施できていない。実施できている項目もあるので、経営発達支援計画が終了後でも、本項目は、計画し実行されると良い。
既存改善	②財務分析面での経営自己診断システムの活用 ・経営自己診断システム活用件数	全職員×2件	年 0 件	年 26 件	年 0 件	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。既存事業であり実施能力は十分のはずなので、適用できる先の開拓ができれば活用できるはずである。
既存改善	③経営分析におけるエキスパート事業の専門家の活用 ・気づきセミナー開催件数	寺嶋・伊藤	年 0 回	年 1 回	年 0 回	E	既存事業であるが、5年間に1度も実施できなかった項目である。気づきセミナーは、経営発達支援計画が終了後でも、是非計画し、実行して欲しい項目である。
新規事業	④経営分析の伴走型支援における専門家の活用 ・経営分析事業者数(総計) ・経営分析件数(巡回・窓口相談時) ・伴走型支援での分析件数	指導員×3件 他職員×2件	計 1 件	計 30 件	計 0 件	E	残念ながら、5年間にほとんど実施できなかった項目である。経営発達支援計画が終了後でも、是非計画し、実行して欲しい項目である。
			1 件	26 件	0 件	E	残念ながら、5年間にほとんど実施できなかった項目である。とはいえ、計画4年目に1件「専門家派遣による経営分析」ができていたので、対応能力はあると評価する。
			0 件	4 件	0 件	E	
新規事業	⑤ホームページによる啓発活用 ・商工会ホームページ等での情報発信(アップ回数)	寺嶋・小泉	年 42 回	年 6 回	年 13 回	A+	件数は昨年度より減少したが、目標は大きくクリアしており、また5年間継続で実施できていることも評価できる。是非継続して欲しい。
<b>3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】</b>							
【小規模事業者の事業計画策定支援目標】							
既存改善	①巡回訪問を強化 ・経営指導員等の巡回訪問による事業計画策定件数	指導員×3件 他職員×2件	年 18 件	年 20 件	年 8 件	C	5年間でもっとも多い成果の実施ができている。また、「融資情報提供」を除いて、5年間継続できている事も評価できる。この項目の件数があるということは、「2.経営分析」の件数も上がるはずなので、その連携も一度点検するとさらに効果も評価も上がるはずである。
既存改善	②個別相談やセミナーの開催 ・個別相談やセミナーからの経営指導員等の事業計画策定件数	全職員×1件	年 0 件	年 10 件	年 8 件	B	目標値には少し届かなかったが、昨年より大きく増加した件数を実施でき、評価できる。
既存改善	③事業計画策定支援におけるエキスパート事業の専門家の活用 ・エキスパート事業の専門家の派遣等による事業計画策定件数	全職員×1件	年 9 件	年 10 件	年 21 件	A+	目標値を大きくクリアし、昨年よりも大きく増加した件数を実施できたことは評価できる。
既存改善	④各種補助金の情報提供等支援 ・各種補助金情報提供等による事業計画策定支援	指導員×1件	年 18 件	年 4 件	年 18 件	A+	目標値を大きくクリアした件数を実施できたことは評価できる。
新規事業	⑤小規模事業者経営発達支援融資の情報提供等支援 ・小規模事業者経営発達支援融資支援件数による事業計画策定件数	小泉・内海	年 0 件	年 2 件	年 0 件	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。経営発達支援計画が終了後でも、是非計画し、実行して欲しい項目である。
既存改善	⑥各種専門家相談 ・各種専門家相談(経営・法律・特許・建築)	矢野・内海	年 13 件	年 30 件	年 21 件	C	目標値には少し届かなかったが、昨年より大きく増加した件数を実施でき、評価できる。
新規事業	⑦事業計画策定の伴走型支援における専門家の活用 ・事業計画策定の伴走型支援における専門家での事業計画策定件数	指導員×1件 安野	年 0 件	年 5 件	年 11 件	A+	目標値を大きくクリアし、昨年よりも大きく増加した件数を実施できたことは評価できる。
新規事業	⑧創業支援における事業計画策定支援 ・創業支援における事業計画策定件数	指導員×1件	年 10 件	年 5 件	年 13 件	A+	目標値を大きくクリアし、昨年よりも増加した件数を実施できたことは評価できる。
<b>4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】</b>							
【事業計画策定後のフォローアップ支援に関する目標】							
新規事業	①経営指導員等による定期的な事業計画策定後の実施フォローアップ ・経営指導員等による事業計画策定後の実施フォローアップ事業者数	指導員×4件 他職員×3件	年 2 件	年 30 件	年 4 件	D	評価は、前年同様であるが、「3. 事業計画作成支援」の数が増加してきたので、今後フォローできれば支援数は増加できる。
既存改善	②エキスパート事業での事業計画策定後の実施フォローアップ ・エキスパート事業での事業計画策定後の実施フォローアップ事業者数	全職員×1件	年 1 件	年 10 件	年 2 件	D	目標値には届かなかったが、昨年より増加した件数を実施でき、評価できる。また、3年目から継続実施できていることも良い。
新規事業	③事業計画策定後の実施フォローアップの伴走型支援における専門家の活用 ・事業計画策定後の実施フォローアップの伴走型支援における専門家のフォローアップ事業者数	指導員×1～2件	年 0 件	年 5 件	年 0 件	E	伴走型支援件数ができてきているので、今後フォローアップもして欲しい。5年間で1度実施だったが、改善はできないはずである。
新規事業	④各種補助金及び小規模事業者経営発達支援融資支援後のフォローアップ ・各種補助金及び小規模事業者経営発達支援融資支援後のフォローアップ事業者数	指導員×1～2件	年 10 件	年 6 件	年 17 件	A+	目標値を大きくクリアし、昨年よりも大きく増加した件数を実施できたことは評価できる。
新規事業	⑤創業者に対する事業計画策定後の実施フォローアップ ・創業者に対する事業計画策定後のフォローアップ事業者数	指導員×1件	年 8 件	年 5 件	年 10 件	A+	目標値を大きくクリアし、昨年よりも増加した件数を実施できたことは評価できる。
<b>5. 需要動向調査に関すること【指針③】</b>							
【需要動向調査に関する目標】							
新規事業	①展示会・イベント等でのバイヤーのニーズと消費者ニーズ調査 ・展示会開催時の工業系ニーズ調査(支援事業者数) ・イベント開催時の商業観光系ニーズ調査(支援事業者数)	宮川・寺嶋 小川・小泉	年 0 件 年 0 件	年 2 件 年 2 件	年 0 件 年 0 件	E E	3年目までは計画通り実施できていたので、コロナ事態が収束したら、再開されるものと考えられる。
新規事業	②市場環境の調査分析 ・市場環境の調査分析(支援事業者数)	伊藤・内海	年 0 件	年 1 件	年 0 件	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。経営発達支援計画が終了後でも、計画し実行して欲しい項目である。
新規事業	③需要動向の把握 ・需要動向調査の実施時調査(支援事業者数) ・需要動向調査の啓発活動回数(巡回時啓蒙先数)	矢野・小川	年 0 件 年 0 件	年 1 件 年 10 件	年 0 件 年 0 件	E E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。経営発達支援計画が終了後でも、計画し実行して欲しい項目である。
新規事業	④需要動向調査の必要性の啓蒙と支援先の掘り起こし ・支援先の掘り起こし(新規支援事業者数)	宮川・小川	年 0 件	年 4 件	年 0 件	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。経営発達支援計画が終了後でも、計画し実行して欲しい項目である。
新規事業	⑤情報提供の有効性を検証するための委員会を活用 ・情報提供の有効性の検証	安藤・宮川	年 0 件	年 1 件	年 0 件	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。

伊勢原市商工会 令和3年度 経営発達支援計画目標対比実績管理表

2022.06.02 検証委員会（書面決議）

		担当	昨年度 実績値 (令和2年度)	本年度 目標値 (令和3年度)	本年度 実績値 (令和3年度)	評価委員 評価A～E で表示	評価委員コメント
※全職員：宮川・内海・小川・小泉・矢野・安野・寺嶋・伊藤を指す（局長を除く） (下線は選択事業)							
<b>6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事【指針④】</b>							
【需要開拓支援の目標】							
工業系（製造業・建設業等向け）販路開拓支援							
既存改善	①工業系支援1: 商談機会の拡大 ・商談機会の拡大(事業者数)	宮川・寺嶋	年 0 件	年 10 件	年 0 件	D	工業系の需要開拓については、5年間に1度も実施できなかったが、商業関係系は実施できている項目もあるので、経営発達支援計画が終了後でも、本項目は、計画し実行されると良い。
新規事業	②工業系支援2: 商談会とセットで提案力向上を支援 ・商談会とセットで提案力向上(事業者数)	宮川・寺嶋	年 0 件	年 4 件	年 0 件	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。
新規事業	③工業系支援3: 事業者連携による商品サービス競争力強化支援 ・事業者連携による商品サービス強化(事業者数)	矢野・内海	年 0 件	年 3 件	年 0 件	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。
商業観光系（飲食業・小売業等向け）販路開拓支援							
既存改善	④商業系支援1: 即売会の機会提供と集客支援 ・即売会の機会提供と集客支援(実施回数)	小泉・小川	年 0 回	年 6 回	年 2 回	C	目標値には届かなかったが、昨年より増加した件数を実施でき、評価できる。また2年目まで計画通り実施できていることも良い。
新規事業	⑤商業系支援2: 即売会とセットで販売力向上を支援 ・即売会とセットで販売力向上(支援先事業者数)	小泉・小川	年 0 件	年 13 件	年 0 件	E	残念ながら、5年間にほとんど実施できなかった項目である。とはいえ、計画2年目に2件実施しているの、対応能力はあると評価する。
新規事業	⑥商業系支援3: 継続的な需要獲得に向けた顧客化支援 ・継続的な需要獲得に向けた顧客化(支援先事業者数)	小泉・小川	年 5 件	年 10 件	年 7 件	C	目標値には届かなかったが、昨年より増加した件数を実施でき、評価できる。また3年目までは計画通り実施できていることも良い。
<b>II. 地域経済活性化に資する取り組み</b>							
<b>1. 中心市街地の賑わい創出による地域活性化事業</b>							
【到達目標（事業実施方針）】							
既存改善	①中心市街地の賑わい創出による地域活性化事業 ・商業のまちづくり協議会回数(全体会議、正副部会長会議) 商品サービス部会、プロモーション部会、まちなみ環境整備部会	内海 小泉・矢野・伊藤	年 2 回	年 30 回	年 2 回	D	目標値には届かなかったが、前年と同レベルでは実施している。また5年間継続して実施できているのは良い。
既存改善	②商工まつり・納涼まつりの開催 ・商工まつり・納涼まつりの開催の件数	全員 青年部・女性部担当	年 2 回	年 2 回	年 1 回	C	昨年まで4年間継続して目標値をクリア(A)しているの、本年度が目標値に達しなかったのは、残念である。
<b>2. 歴史・観光に関連した商品・サービス企画・開発支援</b>							
【到達目標（事業実施方針）】							
既存改善	③駅周辺商店街連携イベントの開催 ・駅周辺商店街イベントの回数	小泉・矢野・伊藤	年 6 回	年 5 回	年 4 回	B	市売りになるモノはぜひ活用して、活性化して欲しい。
既存改善	④商店街観光ツアー等のイベントの開催 ・商店街観光ツアー等のイベントの回数	矢野・安野	年 0 回	年 4 回	年 1 回	D	前年より実施件数が減少し、目標値に届かなかったが、前年と同レベルでは実施している。また5年間継続して実施できているのは良い。
新規事業	⑤観光関連事業との連携 ・観光関連事業と連携の回数	小泉・安野	年 0 件	年 2 件	年 0 件	E	目標値に届かなかったが、前年から再開した。2年、3年目も実施できているので、今後は継続できると良い。
<b>3. 地域ブランド事業</b>							
【到達目標（事業実施方針）】							
新規事業	⑥地域ブランド事業の開発活動を支援 ・地域ブランドの開発活動を支援回数	小川・小泉	年 2 件	年 2 件	年 2 件	A	5年間連続して、目標達成している。継続して欲しい活動である。
<b>III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援向上のための取り組み</b>							
<b>1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等、情報交換に関する事</b>							
【ノウハウ等情報交換の目標】							
既存改善	①他の商工会・商工会議所、支援機関、専門家等との情報交換 ・近隣商工会等情報交換回数	宮川 他、指導員3名	年 0 回	年 2 回	年 2 回	A	継続しての活動はできている。継続は力なりです。
新規事業	②近隣商工会・商工会議所連絡会の開催 ・商工会・商工会議所連絡会回数	宮川 他、指導員3名	年 1 回	年 2 回	年 1 回	C	昨年より再開した。3年目まで継続実施できている事は良い。
新規事業	③地域経済動向や需要動向に関する情報獲得 ・支援機関等連絡会回数	宮川 他、指導員3名	年 0 回	年 2 回	年 0 回	E	目標値に届かなかったが、5年間連続して実施できているので、ぜひ再開して欲しい。
<b>2. 経営指導員等の資質向上に関する事</b>							
【資質向上の目標】							
集合研修							
既存改善	①神奈川県商工会連合会等主催研修会への参加 ・経営支援職員研修会の開催(支援職員8名の合計回数)	全職員 (特に指導員以外)	年 33 回	年 20 回	年 39 回	A+	目標値を大きくクリアし、昨年よりも増加した件数を実施できたことは評価できる。
新規事業	②商工会内勉強会の実施 ・商工会内勉強会の回数(小川・小泉・矢野・安野・樋口・伊藤の持回り)	左記の担当職員	年 0 回	年 12 回	年 0 回	E	実施ができていないことは残念である。3年目までは継続しているので、ぜひ再開して欲しい。
個別研修							
既存改善	③WEB研修の受講 ・WEB研修の実施(年1回)	全職員	年 1 回	年 1 回	年 1 回	A	目標達成している。5年間連続している事も良い。
情報・支援ノウハウ共有							
新規事業	④チーム同行巡回による資質向上策 ・チーム同行巡回の回数(毎月)	宮川:小川、寺嶋 内海:安野、伊藤 小泉:矢野	年 15 回	年 48 回	年 20 回	C	組織のレベル向上に必須な仕掛けですので、経営発達支援計画が終了後でも、計画し実行して欲しい項目である。
新規事業	⑤標準支援業務マニュアルの作成 ・マニュアル整備の実施(毎年更新)	宮川	年 0 回	年 1 回	年 0 回	E	目標値には達していないが、昨年よりは増加しているのは良い。計画2年目から継続できている事も良い。
新規事業	⑥成功事例・支援ノウハウのデータベースでの共有化 ・成功事例・支援ノウハウのデータベース共有化(毎年更新)	宮川	年 0 回	年 1 回	年 0 回	E	残念ながら、5年間に1度も実施できなかった項目である。経営発達支援計画が終了後でも、計画し実行して欲しい項目である。
<b>3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関する事</b>							
報告							
①実績報告書作成	・目標対実績管理表(当シート)を用いて実績報告書を作成 ・フォローした小規模事業者に対して満足アンケートの実施	内海 全職員	年 1 回 年 0 回	年 1 回 年 1 回	年 1 回 年 0 回	B A E	事業の評価及び見直しの仕組みは、きちんと機能しており良い。フォローした小規模事業者に対する満足度アンケートも検討して欲しい。
外部評価							
②外部有識者による評価及び見直し	・非会員有識者等で構成する「経営発達支援計画検証委員会」の開催		年 1 回	年 1 回	年 1 回	予定 A	令和4年6月2日(木)実施予定(書面決議による実施)
是正措置							
③指導や助言方法、支援計画や支援体制などの見直し	・外部機関による評価と指摘に基づき、上記の見直し(是正措置)	安藤・宮川	年 1 回	年 1 回	年 1 回	A	専門家による評価と是正措置の指摘を受ける。
講評・承認							
④正副会長会議による評価・見直し方法の承認	・正副会長会議及び理事会において評価・指摘・講評と承認を受ける		年 1 回	年 1 回	年 1 回	予定 A	令和4年6月8日(水)正副会長会議を予定
⑤事業の成果、評価及び見直し結果の公表	・理事会承認の後に、商工会報及びホームページで公表	寺嶋・伊藤	年 1 回	年 1 回	年 1 回	予定 A	令和4年6月17日(金)理事会を予定

評価基準 <定性評価(定量評価)>

A: 目標を達成することができた(100%以上) B: 目標を概ね達成することができた(80~99%) C: 目標を半分程度しか達成することができなかった(30~79%)  
D: 目標をほとんど達成することができなかった(30%未満) A+: (110%~) E: 未実施

<総評は別紙記載>